令和２年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）　　学校番号１５　光が丘第一中学校

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	特に以下の力に課題がある。 【書く力】 　自分の経験をもとに、自分の意見を展開することが苦手な生徒が多い。論理立てて述べる意義は理解しているものの、根拠としてふさわしい例を出すことが難しい。 【話す力・聞く力】 　原稿を作り、スピーチ等を行う力はある程度ついてきている。一方で、話し合い活動には課題がある。質問をして掘り下げたり、広げたり、さらなる疑問をもったりする力をつけていく必要がある。	【書く力】 　文章を書いたら、他の人の作品を評価することを大切にしていく。「指摘すること」を通して自分のスキルアップにつなげさせる。 【話す・聞く力】 　班活動は今の段階では難しいので、全体で話し合いを行う。全体で行うことにより、一つの発言に全員が集中できるので、その後、どのような質問をすればよいか、掘り下げる発言とはどういうものなのか、全員で検証できる。検証しながら、スキルアップにつなげさせる。	
社会	どの学年も、授業に意欲的に取り組もうとする生徒が多い。しかし、意欲はあるが、知識がなかなか定着していなかったり、提出物関係で手厚い支援が必要だったりする生徒が多く見られる。個別の声かけのほかにも、板書や、スライドを用いるなどして、配慮をしていきたい。	・導入では、スライドや写真、イラストなどを活用し、興味をもたせる。 ・板書計画をしっかりと立て、見やすい板書を心掛ける。 ・ノート点検などを丁寧に行い、支援が必要な生徒を把握に役立てる。それをもとに適切な声かけをする。 ・知識定着のため、単元終了ごとに小テストを実施する。	
数学	どの学年も、授業に対しては真面目に取り組んでいるが、技能的なことがなかなか定着しない傾向があるので、繰り返し学習や家庭学習を意識した指導をしていく。 　また、数学的な見方や考え方についての能力が不十分なところがあるので、生徒が興味をもつような題材や、日常生活に関係のある題材を授業で扱い、自ら考えて取り組む学習活動を促すよう、指導改善を図っていく。	・繰り返し反復して学習することによって基礎学力の定着を図る。 ・深く考える場面が増えるような課題の提示を心がける。 ・自らの考え方を説明できるような指導場面を設定する。 ・すぐに解説するのではなく、ヒントを与え生徒自らの力で答えを導かせ、分かる喜びを経験させる。	
理科	「科学的な思考・表現」の分野が苦手である。実験、観察の結果をまとめる作業を通して、思考力・表現力を高めていき、「知識・理解等」を深めさせる。それを次の学習につなげていく指導方法の工夫が必要である。また、理科に関する興味を失われないような授業を行うようにする。	身近な出来事や事象を教材として導入の工夫をする。ＤＶＤ教材を多用し、興味、関心、意欲を高める。授業の中で、対話を通して科学的思考力に関わる問題を多く取り上げ、時間をかけて追究する学習形態にする。また、観察の結果を画面で表示したり、実験の結果のノートの評価を通して技能･思考や表現を向上させる。	
音楽	音楽を聴き、その特徴をとらえ、良さを味わいながら文章を書くという力が不足している。偏った内容ではなく、多くのジャンルの音楽に触れさせる必要がある。また、音楽と文化、歴史を関連づけて鑑賞し、その良さを味わう指導を行う必要がある。	生徒自身が音楽の特徴や良さを発見できるよう、音楽を比較したり、小単位のグループで意見を交わしたりしながら鑑賞する授業を展開する。	
美術	・授業に集中して意欲的に取り組んでおり、全体を通して「学ぶ楽しさ」を感じている生徒が多い。 ・形や色からイメージをふくらませたり、自分の考えを基に表したりすることが苦手な生徒がいる。 ・技能の差があり、造形経験が乏しく、初歩的な段階に立ち戻って技能を習得させる必要がある生徒がいる。 ・自他の作品からよさや美しさを味わっているものの、発展的に学び取る力を高めることが課題である。	・学習内容や目標を示し、生徒一人一人に応じた的確な支援・指導を目指す。 ・授業で掲示物や視聴覚機器を活用し、生徒が課題を理解し、作品例から多様な表現方法や制作工程を学ぶことができるようにする。 ・制作者の考えや表現意図を書いたり、紹介したりする機会を設ける。 ・様々な素材の触感や道具の使い方を楽しむ時間を設定する。 ・基礎的な知識や技能を習得させ、多様な表現方法から自分に合った表現方法を選択し、自分らしい表現を追求させる。	

		課題分析	授業改善策	改善状況
保健体育		運動の土台として、体力の向上を図るとともに各種目の基本技能を身に付けさせることを優先的に考える必要がある。指導の工夫としては、教員が具体的に課題等を示すだけではなく、生徒自らが課題点を明確にし、必要だと感じることに焦点を当てて取り組み、体力向上や技能、思考・判断力を高められる機会を意図的に用意することが大切だと考える。	・生徒の興味・関心や発達段階に応じた単元指導計画を通してスモールステップの学習を実践し、生徒が【できた・わかった】→【楽しい】→【もっと】のサイクルを作れるようにする。 ・全体指導と個別指導のバランスを考える。 ・生徒自らが課題点や成果を明確にし、それに応じて練習方法を選択したり、工夫したりする機会を段階的に増やすようにする。	
技術・家庭	技術	・各学年座学において意欲的に取り組んでいるが、知識の定着においてはやはり差が出ているため振り返りの部分を確実に行っていく。全学年とも工作実習がまだ行われていないため実技においてもプリントや模範例などで視覚的な支援を行っていく。	・興味関心をもたせる工夫と、作業を進めていくうえで主体的に行っていけるような支援に重点を置く。 ・製作実習時は作業の効率化を目指して指導を進めていく。日々の反省の中で効率よくできるように工夫していく。	
	家庭	・実技に重点を置いているため、理論的な裏付けをすることが不十分である。 ・授業で行った学習内容が日常生活の中でどれだけ改善されたのか把握しにくい。	・継続した理論の裏付けができるよう、実技とのバランス配分を改善していく。 ・主体的に学習が進められるよう、その時間の課題の模範を示すなど見本などを多く用意し細やかな段階毎にチェックや評価をし励みとなるようにする。	
外国語（英語）	1年	定期考査の結果から、1学期の学習内容については概ね理解できている生徒が多いように思われる。一方、すでに学習内容につまづきを感じている生徒もいる。その時間に学習している文法内容については理解できるが、復習や家庭学習が足りずに定着までいかず、新しい文法事項と混同して適切に区別して使用することができないからだと思われる。	1学期と同様に、単語を書けるようにすること、教科書の本文をすらすらと音読できること、英文を正しく書けるようにすることを目標に授業と家庭学習の有機的なつながりを意識して指導計画を立てていく。その際、どのレベルの生徒にとっても、自分の力を高められるようなプリントを改善しながら作成していく。	
	2年	4つの観点のうち、表現の能力の達成率が他の観点よりも下回っている。学習内容が徐々に複雑になってきており、1年生で学習した英単語、熟語、英文などの中で未定着のまま積み残されている生徒が増えてきていると思われる。 また、複雑な英文を正確に日本語になおす力が不足している生徒も見られる。	単語テストや家庭学習の課題等、さらに計画的、継続的に英単語・英文を書いて練習する機会を与える。同時に、複雑な構造の英文を正確に日本語に直す演習の機会を増やす。 また、書いたり話したりの表現活動を、2学期以降はできるだけ多く行い、その題材や場面設定を、生徒が興味がわく、表現したくなるようなものにしていく。	
	3年	「外国語理解の能力」の正答率が下がってきている。文章読解問題の難易度や量が増えてきていることが主な原因と思われる。 「外国語表現の能力」で、モデル文を参考にしたり、広いテーマから好きなものを選んで表現することはよくできても、例えば「日本の夏の行事」等、テーマが絞られてしまうと全く表現できなくなる生徒が見られる。時間制限があるとその傾向が顕著である。	予習の励行と、初見の英文を自分で読み進める機会を授業でも多く設ける。質の高い英語を聞かせる機会も引き続き設けていく。 様々なことが表現できるよう、覚えるべき重要語句を吟味して提示して、幅広い語彙力を身に付けさせる。また、必要な語彙を素早く想起できるよう、1年時から継続している「コミュニケーションシート」等を用いて、即興で英文を組み立てて話す機会をより多く設ける。	